



## \* デンマーク生活便り ⑧ \*

### 知的障がい者福祉政策の歴史(1)

理事長 千葉忠夫

現在日本は勿論のこと世界中で知られているノーマリゼーションの考え方はデンマーク注1が発祥の地であることは皆さん周知のとおりである。

ノーマリゼーションの提唱者はN. E. バンクミケルセン注2であることも福祉を学ぶ者あるいは障がい者福祉施設等の現場の人々は殆ど知っていると思う。

デンマークの知的障がい者の歴史を語るときにノーマリゼーション、バンクミケルセンを抜きにすることは出来ない。

このノーマリゼーションの考え方がデンマークの知的障がい者福祉の施策として法的に取り入れられたのは1959年のことである。

1950年以前のデンマークの知的障がい者福祉がどんなものであったかを探り、ノーマリゼーションに至る過程、そして今日の知的障がい者たちの生活を紹介したいと思う。

現在デンマークの障がい者に関係した仕事をしている職員でノーマリゼーションあるいはバンクミケルセンを知ってる者はごく僅かなのは何故なのであろうか？

日本では福祉関係の教科書にも登場するバンクミケルセンの考え方であるにもかかわらず、デンマークでは特に30歳以下の職員はバンクミケルセンを全く知らない人が多いのである。

ここで1959年に社会福祉の分野で法的に明記されたノーマリゼーションとは何かを紹介する。「ノーマリゼーションとは精神薄弱者注3の生活条件を可能な限り正常な社会の生活条件に近づける」ということであった。

デンマークでは1952年奇しくも日本と同じ頃に「精神薄弱者親の会」が発足したが、この親の会の方々と共に当時デンマーク社会省の障害者福祉局長のバンクミケルセンが立案したものであった。

バンクミケルセンは世界30数カ国でノーマリゼーションの考え方を紹介してきた注4が、1990年8月バンクミケルセンは生涯の最終講義をデンマークの日欧文化交流学院でされて帰宅した夜入院、その後は在宅死を選び家族に看取られて9月20日永眠された。

バンクミケルセンの偉業を後世に伝えるためバ

ンクミケルセン記念財団注5が設立された。

かつて精神薄弱者と呼ばれていた人たちは家庭内に閉じ込められ社会には殆ど出ることが無かった注6ので教育を受けることも無く、就労も出来なかった。精神薄弱者を持つ家庭は何か罪を犯したかのように入目を避け、恥ずかしいという気持ちを持っていたのだった。精神薄弱の子供が町に出てくると皆に馬鹿にされ、時にはいじめに会うこともあったのであるべく家から外に出さないようにしていたのだ。

デンマークが精神薄弱者に対しその福祉政策を開始したのは1800年代の終わり頃からのことであった。家で何もせずぶらぶらさせておくのは良くないので1箇所社会隔離して収容し始めたのだ。この収容は社会福祉とは程遠いもので貧民対策注7と同じようなものであったが、馬鹿(精神薄弱者)を治すために収容すると理解されていたのだ。以前は馬鹿と呼ばれていた者を精神薄弱と呼ぶようになったのは聖書にある言葉の「魂の弱い人々」からだ言われている。

従って、1890年代には精神薄弱福祉政策は精神科医が主導権を握っていた注8。精神薄弱者はその行動により社会に害を及ぼすことがあるので、施設に収容され教育を受けることも無く、食事を与えられて清潔に、静かに、規則正しく生活するよう指導訓練された。

1929年から1934年の間に精神薄弱者の数を医学的見地から増加させないために避妊手術が男性、女性双方の精神薄弱者に行うなど精神薄弱者の法に決められた。また1938年の婚姻法では精神薄弱者の結婚が規制されていた。この法は1959年にできた新しい精神薄弱者法の中でも引き継がれていたが1967年になって初めて廃案となった。

1959年から1967年の間に改正すべき点は：

- \*精神薄弱者の自由の拘束
- \*精神薄弱者の治療

この間に改められた点：

- \*精神薄弱者に対する不当な処罰治療
- \*精神薄弱者に対する低品質な物品提供
- \*長期の強制的管理

継続された点：

- \*避妊手術や婚姻の規制
- \*落ち着きの無い患者に対する治療の継続



1959年社会省の社会福祉局長となったバンクミケルセンは知的障害者親の会 LEV と共にノーマリゼーションを提唱したのが「59年法」と呼ばれている。

**注1)** デンマークは九州くらいの面積で人口は福岡県(約520万)くらいの小国だが揺りかごから墓までを自負する文字通りの社会福祉国家である。**注2)** バンクミケルセン デンマーク人 Niels Erik Bank-Mikkelsen (1919-1990年) **注3)** デンマークでも以前は知的障がい者を精神薄弱者と呼んでいた。**注4)** バンクミケルセンは1986年穂積隆信氏に招待されて日本各地で講演をした。通訳は日欧文化交流学院長の千葉忠夫であった。**注5)** バンクミケルセンが昇天された後デンマーク国内において記念財団創設の動きが無かったので1991年千葉忠夫がバンクミケルセン記念財団を発足させた。ノーマリゼーションの理念を理解実践し更には啓発活動を行っている者に対しバンクミケルセン記念賞を授与している。**注6)** 1800年代のデンマークは農業国であり現在のように社会福祉国家とは呼ばれていなかった。**注7)** 1800年代には貧民対策として病人や高齢者を貧民ホームに収容していたので精神薄弱者も貧民(病人)とみなされたわけだ。**注8)** 1884年—1902年までは精神薄弱は生物学的、医学的見地から遺伝するものと思われていた。

## 日本を憂える

川島正仁

世界を歩いてみて理解できたことは、私たち日本人が一番正直で真面目な民である。故に簡単に騙されやすいとも言えます。その良い例が「おれおれ詐欺」がいまだに続いていることです。ほかの国ではこれほどうまくは行きません。己を守るすべを心得ているからです。

中国が突如として「防衛識別園」の設置、国内では「特別秘密保護法案」そして韓国の「TPP」参加表明、私たち多くの国民はこの恐ろしい状況に慄いています。しかしよくこれらを考えると、この結果どこが一番得するのか、そう思うとこの状況によって日本人は一日でも早く「防衛体制」をしいてほしい、となります。さらに多くの日本人に愛される「ケネディ大使」の出演です。自民党県連の基地県内設置承認等、案外「密約」が交わされているかもしれません。

韓国の「TPP」参加などは、我が国にプレッシャーを与え早く加盟せよ！我々多くの真面目な同朋が稼いだ1500兆円もの預金が目当てなのかもしれません。よく考えましょう。

## 報告「第4回研修塾(京都)」に参加して ～Weekend Folkehøjskole in Kyouto～

関西大学生 高松耕一

千葉先生に声をかけて頂き、京都・関西セミナーハウス修学院きらら山荘で11月15日から2泊3日で行われた研修会に参加した。研修会では「日本を再建するためには」ということを、主に教育の観点から議論した。私は今年8月から3カ月間デンマークで福祉を学んだ。また、小学校の学童保育の指導員として教育現場に関わっているの、今回の研修会のテーマは非常に興味深いものであった。

第1日目は懇親会があり、デンマークから来られた来賓の方を交えて他の参加者と交流する機会があった。参加者のバックグラウンドとしては、大学教授、成年後見人、障害者の施設の支援員、元郵便局の職員などに多岐にわたる。私は現在、社会福祉を学ぶ大学生である。そのため他の参加者と情報交換することで学ぶことは多くあった。

第2日目は、まず午前中にNPO法人日本・デンマーク生活研究所前副理事長の川島氏の講義を受けた。氏が南米で過ごされた経験談は、私には新鮮であった。

また教育現場における体罰にも話題が及んだ。教育現場に体罰は必要なのかどうかという議論になった。

午後からは、京都テルサに会場を移し、千葉先生から講義を受けた。国民教育のあり方、真の民主主義、平等、デンマークの選挙制度などが主な内容であった。特に印象に残ったことは、デンマーク流の平等の捉え方は、人数分に均等に分配するのではなく、必要な人に必要な分だけ分配するというものであった。

次にデンマークから来賓として来られた幼稚園長のアネッテ・イエプセン氏、そして国民学校(小・中学校に相当)長のローネ・ボーデケア氏の講演を聞いた。デンマークの幼稚園や国民学校の概要についての講演であった。幼稚園については、活動内容としては遊びが中心であり、ペタゴ(保育士)は子ども達が自分たちで課題を解決できるよう見守るのが役割だそうである。国民学校については、英語教育に力を入れていることやクラスを少人数制にし、



主会場  
関西セミナーハウス  
修学院きらら山荘の  
庭園の一部

担任の指導が行き届きやすい環境を整えているということが印象に残った。教師からの一方通行である授業形式ではなく、議論を重視し生徒に自主性が求められる授業形式であると感じた。



最終日は、研修を通して「日本を再建するためには」という課題に対し、何が出来るかということについて議論した。以下に議論を通しての結論を示す。

日本を再建する役目を担う若い世代には期待がかかる。そして若者を育成するのは教育である。そのため教育の面から改革していくことが日本の再建の第一歩となる。

まず、若い世代が選挙を通して教育・福祉に財源をさらに投入するべきと訴えていくことが必要である。そのために小学校教育の時期から市役所や国会議事堂を見学する機会を設けることにより、政治の世界を身近なものにする。また、選挙の際、全政党の関係者を学校に招待し生徒も参加する形で議論することも有効な方法である。

それと同時に憲法教育(特に13条・幸福追求権、25条・生存権)を行うことにより、社会のことは自分たちで物事を決めていくという自己決定の意識を高めることも求められる。

次に教育システムの改革について述べる。自分の意見を伝える能力を磨くため、教師が生徒に対して一方的に授業を行うのではなく、生徒が自ら議論する授業方式を積極的に取り入れるべきである。そのためには生徒の発言に対して教師は「それは間違っている」と指摘するアプローチの仕方ではなく、「なぜその考え方になったのか」を問い、議論を重ね、結論を導き出すアプローチが求められる。

また生徒が安心して勉学に打ち込める環境を整えることも必要である。例えば、スクールソーシャルワーカーなど福祉専門職と教育現場の連携によって、子育てなどに課題を抱える保護者に対する支援を充実させる。

またクラスの生徒数をできる限り減らすことにより、教員の指導が行き届きやすい環境を作ることも必要であるといった意見も出た。

私は今回の研修は3カ月間のデンマークで小学校や福祉施設を訪問した際の学びの振り返りとなっただけでなく、他の参加者の方から多くの意見を頂いたことにより刺激を受けた。

この度は、千葉先生のご厚意により貴重な機会を提供していただき感謝しています。今回参加した方々との連帯を深め、ご指導を仰ぎながら努力を続けていきたいと思っております。(2013年11月)

## ネパールでの高齢者施設建設企画

プリンティス里美

今年2013年春、日欧文化交流学院の社会福祉コース卒業生で高齢者介護の日本とデンマークとの違いをテーマにした学生がいました。質疑応答の時に、ネパールから来た学生がどうして自分の親を自分で看えないのか、という質問を投げかけました。

日本・デンマークを含め多くの国々が社会的事情により親を家族だけで看ることが不可能となり、高齢者施設を利用しているのが実情です。日本でも、家族が親を看るということは当たり前の時代、親を施設に預けるのは恥と思われる時代がありました。やっと最近、認められるようになったという経過を踏まえ、逆にネパールでは家族が親を看るといふことに何も問題は起こっていないのか、という問いかけを千葉忠夫さんが投げかけました。その場にいた他のネパール人学生たちが、確かにネパールでも家族に大きな負担となり、同じような問題は起こっていて、これからはネパールでも高齢者施設が必要になるだろうと答えました。

そこで千葉さんは、ネパールに高齢者センターやデイケアセンターなどを造ってはどうかと提案しました。ネパール人学生たちも出来るのであれば是非造りたいと賛成したのです。

そこから千葉さんの活動が開始されました。その場にいた1人のネパール人学生が高齢者センターの計画書を作成しましたが、まずはすでに計画中であるが資金不足で保留になっているデイケアセンターの建築を勧めることとなりました。建設予定地はカトマンズから14Km東になります。

みなさんもお存じの通り千葉さんは日本で講演会を精力的に行っています。今年10月にも鹿児島で講演会を行いました。主催者の道免明美さん、講師のアネッテさんと相談された千葉さんは、その時の講演料・謝礼金をすべてネパールのデイケアセンターへ寄付したいと申し出てくれています。

来年1月にはネパールへのスタディツアーが計画されています。もちろん千葉さんも参加します。次回このスタディツアーの報告をさせていただければ幸いです。また、この企画へのご協力をお願いします。(2013年11月)



ネパール連邦民主共和国。2008年王政を廃止。三方をインドに、北方を中国チベット自治区に接する。世界最高地点エベレスト(サガルマータ)を含むヒマラヤ山脈への登山口の国である。国民1人あたりGDPは735USD(2011/12年度)。

## \* 真の民主主義とは ⑧ \*

理事 前田正志

世界には様々な宗教があり、それらの宗教的価値観に基づいて生活している人々が数多くいます。彼らの宗教的な正義が必ずしも民主主義と相容れない場合があります。元来、民主主義はキリスト教的価値観に起源をもつといわれています。そのような民主主義が日本になじむのでしょうか。日本人の宗教観の根底には多神教である神道的価値観が息づいています。そしてキリスト教国のデンマークもキリスト教(一神教)が伝播する前は多神教を信仰していました。寛容と共生の精神の源流は多神教にあるとも考えられます。日本とデンマークは精神的な奥底で共通点が見出せます。日本でもデンマークのような民主主義社会をつくることができるでしょう。

### 【第8回の実践】

デンマークと日本との精神的な共通点を認識してみよう。

## \* 通常総会のお知らせ \*

2014年度通常総会の日が決まりました。

☆ 2014年5月17日 土曜日

会場は、前回の総会と同様TKP小伝馬町ビジネスセンター(中央区日本橋小伝馬町1-4)にて行う予定です。時間等の詳細は別途通知致します。

## ☆ 研修塾のお知らせ ☆

第5回研修塾は、前回と同じ京都で開講します。

☆開講日：2014年9月19日(金)～21日(日)

☆主会場：関西セミナーハウス

☆募集人員：未定 ☆参加費用：未定

☆テーマ：女性の社会進出(予定)

詳細が決まり次第ホームページに掲載します。

## 京都研修塾・シンポジウム 参加者の声

[20代女性] 今日のシンポジウムで保育園・幼稚園・国民学校の話聞き、日本との教育の違いを学ぶことができました。昨年、短期海外研修でデンマークへ行き、実際に国民学校等の様子を見ました。そこで感じた日本との違いは、子どもたちが自由に発言し、一方的な授業ではなかったところです。こういった教育をすることで政治に関心を持つ若者も増えると思いました。日本の若者が海外で活躍できるよう英語に力を入れたり、リーダーシップをつける取り組みの他に、まず住みやすい国にするには、どうしたらいいかということを考え、政治に関心を持つ国民を増やしていくべきだと思いました。そのためには、デンマークのような教育のあり方がキーワードになると思いました。

[30代女性] Jepsenさん、Bodekaerさんのお話から、保護者との会において園長・校長には議決権がないということ、これは議決権のあるなしは問題ではなく、解決に向けた対話のプロセスが大切にされていることだと理解した。この対話のプロセスがあきらめられないこと、重ねられていくことが民主主義の根幹でもあり、そのプロセスの中でこそ、それぞれの人にとっての平等という観念が形成されていくのではないかと思う。平等にしても、教育にしても、普遍的にこうだ、というものではなくて、人それぞれにとっての平等や良い教育というものが考えられていく環境が必要のように思えた。

[20代女性] お目にかかったことのない方たちと意見が交わせたのはよかった。園長・校長・千葉さんのお話もよかったです。やっぱり時が経つと自分が見てきた時と変わっちゃうんだなと思うことと、変わらないなと思うところとありました。でも、実際に、やっぱり見たいです。

[60代男性] 又、参加したい。知ったことを実践につなげたいのだが、少しパワー不足を感じている。

[60代男性] 3日間楽しく過ごさせていただきありがとうございました。充実した内容と幹事の方のご苦勞に感謝申し上げます

45名のアンケート回答者の中から、5名分を紹介しました。

編集後記：★編集中に、世論の70%以上にのぼる反対・懸念を無視して特定秘密保護法が成立した。委員会の議事録には「聴取不能」としか記録されていないという。主権在民が踏みにじられたこの日のことも、主権者国民は水に流してしまうのだろうか。★選挙では棄権も意思表示だという。しかし投票権放棄は他者の選んだ政治家に全てを委ねるといふ主権放棄の意思表示でしかない。京都の研修塾でも低投票率に憤慨する声があった。★それでも研修塾で出会った若い人たち、若さを失っていない人たちの前向きな姿勢が、勇気と希望を与えてくれる。(茂木俊郎)

発行所

〒292-0801

千葉県木更津市請西4-6-9

Tel: 0438-36-3565

お問合せTel: 090-9827-9262

NPO法人ホームページ

<http://www.djsli.com>

オフィシャル・メールマガジンをご希望の方は

[djsli@hotmail.co.jp](mailto:djsli@hotmail.co.jp) まで「メルマガ希望」

とお申し込みください。